

編集後記

- ◇ 財務省が7月28日に発表した日本貿易統計によると、2016年上期（1～6月）における農畜産物の輸出は、引き続き好調だった。サツマイモも急伸しており、輸出数量は933 tで前年増減比85%、金額は3億5千万円で前年増減比107%となった。数量、金額ともにまだ少ないが拡大の余地は大きい。
- ◇ 理化学研究所は7月26日、大阪大学、神戸大学との共同研究で、ジャガイモにおけるソラニンなどの有毒物質の合成に関わる2つの遺伝子（PGA1とPGA2）を同定し、有毒物質が少ないジャガイモの作出に成功したと発表した。この遺伝子の制御によって萌芽が抑制されることも分かり、有毒物質を作らずに長期保存のできるジャガイモ育成の可能性を示した。実用化に向けた今後の研究成果を待ちたい。
- ◇ 東京都を中心に全国の八百屋さんの有志による青果研修セミナー「八百屋塾」は、18年前に発足した。この八百屋塾は毎月1回、青果物商業協同組合の組合員育成や食育推進を目的に、研修会を開催している。5月15日に筆者は、東京・神田の東京青果商会館で開催された2016年5月八百屋塾で「ジャガイモのすべて」と題して講師を務めた。青年・女性を含む会員約60人の参加があり、質疑応答を含め活気溢れる勉強会となった。続いてジャガイモ、大根、メロン、ビワなどの試食・評価会に移り、大変楽しい有意義な時間を過ごした。“皆さん熱心に勉強されていますね。”と問いかけると、“それは皆、生活がかかっていますから。”との応えが返ってきた。
- ◇ 本誌No.129の特集は、「ジャガイモシロシストセンチュウ侵入の現況と対策」をとりあげた。昨年8月に北海道網走地区で、日本では初めて侵入が確認されてから1年が経過した。ようやく、侵入の現況と対策の方向がまとまりつつある。そこで、4人の専門家にジャガイモシロシストセンチュウに関する生態、侵入の現況、抵抗性品種の育成、防止対策などについて解説をいただいた。ジャガイモシロシストセンチュウの防除は大変難しいが、今後、地道で継続的な防除対策の実践を待ちたい。
- ◇ 『干しいも事典』の編集作業は、8月末現在で最終段階にあり、10月には刊行できる運びとなった。干しいものことなら何でも分かる事典とすべく工夫を重ね、既存の情報はもちろん、新たな知見も大幅に加えて編集されている（B5判、265頁、2,500円＋税）。今、静かな干しいもブームを迎えつつある。是非、この事典を一読いただき、干しいもに対する理解を深めていただければ幸いである。

（狩谷 昭男）

いも類振興情報 第129号

2016(平成28)年10月15日発行

定価 1部 500円
年間購読料（季刊） 2,000円

発行 一般財団法人 いも類振興会

〒107-0052 東京都港区赤坂6-10-41 ヴィップ赤坂303
TEL 03-3588-1040 FAX 03-3588-1225

E-mail: imoshin@fancy.ocn.ne.jp
郵便振替 00130-1-110152

印刷 株式会社丸井工文社